合気道新聞

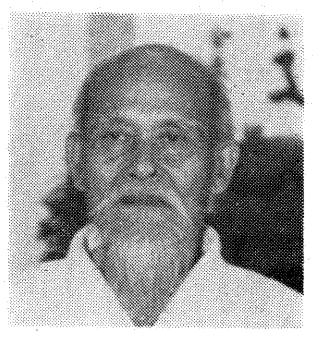
毎月10日発行

発行所
東京都新宿区若松町 102
財団法人　合気会
電話東京34局 (34) 8028

購読料
1ヶ年300円
振替東京49527番
購読御希望の方は、なるべく上記振替口座を御利用下さい。

発刊のことば

道主　植芝盛平



世の創めより天地は生成発展を重ね、天運順環、照徹弥益々に栄光を放つ昭和三十四年目出度く初春を迎え、茲に国土挙ってことほぎの声一同勇み立つの時とはなりました。この時にあたり宇内創成の大精神にのっとり、世の為め国の為めに万有の上を憂いつつ武産合気紙即ち合気道新聞の発刊に至りましたのは宇宙真理完成への誠の現れであります。

私も世界の一分身、一分業として生成化育の道を愛護するに日夜の精進を続けて居る者であります。身変る聖者の如く、又顕幽神三界を万古より守護なし来れる木花姫の神（観世音）の御神業、和合達成に神習い引添いて世を守るのが真の日本の道であらねばなりません。この日本の道を産み顕すを武産合気と申します。さて此の世の生命であり此の経営の根元たる至愛の上に愛を守る愛の働きは、言霊の妙用となりみそぎの道となります。吾人は万有万神の律法を明らかにし、宇宙の真理を把握し、身を以て自己の使命に当り、地上経倫完成の為め、人生の勤めを達成せねばなりません。それには至誠の道を練磨する事であります。至誠は本を忘れず自己を知り、自己完成大生の道であります。世の完成を望む者は自己も又幸福なる完成をせなくては人の真のつとめは望めません。茲に合気の道を愛究される誠友は先ず真空の気と、空の気を、性（さが）と業とに結び合い、喰入り乍ら業の上に科学以て錬磨するのが修業の順序であります。私も老いて愈々益々広く天下の士と交り、濁流を清め、幸福の御代を迎え、共によろこびを讃えたいと誓い、一歩、一歩と怠らず修業を致します。

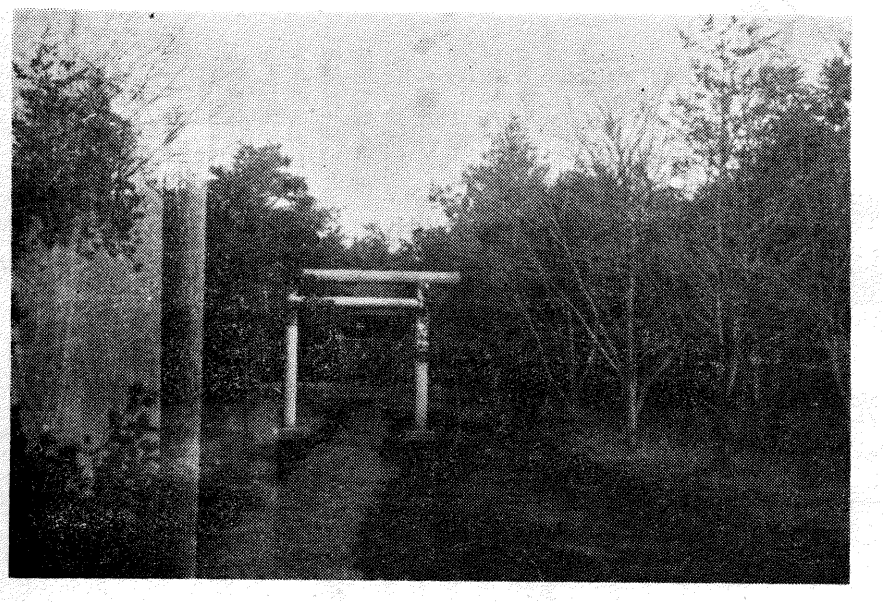
次回よりは最も合気に必要なる言霊を説き其の実行を教え、又人たるの理解を示し武産合気の本文に進講致し此の合気道新聞発刊の挙に懸命の奉仕を致し度と存じます。

合気神社

合気神社は，現在の茨城県支部道場の前身である合気道野外道場の設立のおりに，道主の主唱によって茨城県西茨城郡岩間町に造営されたものであり，道主の武農一致の修行の地として知られている。現在も合気道の精神的奥の院として現存し，各地からの参詣はたえない。

合気道野外道場は，戦争の激化にともない，東京本部の稽古が困難になってより，稽古の本拠をこの地に移動，終戦後昭和23年頃迄道主を中心として稽古されていた。

（写真・合気神社）



発刊に際して
正しい合気道の普及に

植芝吉祥丸

多年の懸案であった〝合気道新聞〟も遂に発刊という事になった。我等志を同じくする者にとって誠に喜ばしい限りである。

顧みるに、この種新聞の発行計画は既に何回がくり返され、そのつど時機尚早という事で延引されて来たのである。というのは合気の道に恥かしくない、より良き良心的なものをという欲求が我等の行動をより一層臆病にし、慎重にせしめたのである。然し乍ら道主が天下に〝合気〟をとなえて以来既に五拾有余年、其の間第二世界大戦というような幾多の変遷はあったというものの、誠に一歩一歩堅実に伸長し、最近の合気道の一般化とともに、国の内外を問わず誠に著しい発展となったのである。特に最近は〝合気道〟の真価が多数外国人の認識により世界各地から日本国内をあおるという状態に迄至っている。このような時に合気道を正しい意味において理解し、更に深く掘り下げて忠実に道に遵じ社会の向上を計るという事は必要欠くべからざるものである。

〝合気道新聞〟の発刊はこうした世界各地の人々の願いとして誠に自然的なものであるとともに、その持つ深い思観と其の中に秘められた動的躍動をもすなおに表現し、たやすく理解させ得る機関紙として、その持つ意義は非常に深いものがある。

ややもすれば合気道発展の余りにも急速なるが為め処により其の輪廓の明瞭を欠くような風に感ぜられる今日、この機関紙が合気道同行者の良き心の糧として成長し、合気道発展の一助にならん事を心から祈るものである。

有段会員章
新たに制定

昨年十二月十三日全国合気道有段者会結成を機に、有段者相互の認識を新たにするため有段者会員章（記章）を制定した。有段章は銀製で合気会員記章よりひとまわり小さく、中央の丸は七宝焼朱色である。

全国合気道有段者会
結成さる

昨年十二月十三日、合気道本部道場にて全国合気道有段者会の結成を行った。この日道主、本部道場長植芝吉祥丸先生、師範部長藤平光一先生が列席され、道主より今後の合気道に対する協力と、有段者相互の親睦と協力を求めた。続いて来賓高橋三吉氏、井上万軒氏の祝辞があり、盛大のうちに閉会した。

副指導員誕生

最近の合気道の認識が世界に高まるにつれ、指導陣の不足を感じていたが、合気道本部は、たまたま一月十五日の定例幹事会で〝副指導員制案〟を提出されたのを契機に、これを採択検討していたが、正式に二月一日より指導部のもとに副指導員制を布くことに決定その活躍を助勢する方針を立てた。

本部寒稽古
盛況

合気道本部道場では、例年の通り寒稽古を一月二十六日より二月四日まで、十日間実施した。

今年は、暖冬異変といわれる通り、寒稽古の名にふさわしくない気候であったが、植芝吉祥丸道場長を始め、藤平光一八段、大沢喜三郎七段に有段者二十余名白帯一二一名が参加し、その他少年部、婦人部も参加した。

特に日曜日の早朝からの稽古では、本部道場に溢れる位の盛況で、若い猛者連は猛稽古を遠慮しなければならない程であった。

二月四日の寒稽古の終った後、寒稽古皆勤者を表彰したが、例年になく五十二名の皆勤者を出し、仲よく皆勤賞を授けられたが、関係者はこの盛況には驚異の態であった。

新年の長崎
昇段式

長崎県支部道場では、新年早々、本年初めての昇段式を行い、六名の初段を出した。

道場の沿革が、最初米国海軍の基地であった関係上多数の米国海軍々人が入門して昇段しているが、今度も二名初段の栄をかち得ている。

合気春秋

道主は、「わしの肉体は四十代、五十代の頃が一番強かった」と常日頃もらしているがその頃の気性のはげしさも天下一品であったそうである。いま流行のノイローゼなどは薬にしたくともものぞめないことであったろう。

ところで普通の四十代ともなれば、一応健康に気をつけ、やれ血圧がどうの、おつむの髪の毛が気になったりして、とうてい青年に太刀討ちできない肉体条件が備わるもので、ましてや武道などというブッソウなものなどは及びもつかないことであろう。

同じ人間に生まれて、どうしてこのような差が出来るのであろうか、よろしく長生きしたい人や、ノイローゼに悩むお方は一考の要があるようである。

道歌

合気にて
よろづ力を
働かし
美わしき世と
安く和すべし

◎合気道大会並びに特別講習会◎

☆合気道大会☆

一、期日　五月十日（日曜日）
一、時間　午後二時～三時三十分
一、場所　財団法人合気会本部道場
一、大会次第
　▽各地支部、各学校、会社における各地代表の演武
　▽植芝吉祥丸道場長、藤平光一師範部長等各高段者の演武
　▽植芝盛平道主演武
　▽昇段武
★謝恩会（道主を中心とせる）
一、日時五月十日午後四時30分より
一、会費　金三百円也
（希望者のみ）

☆特別講習会☆

一、期日　自五月八日～至月九日
一、時間　午前六時三十分～八時
　午後六時～七時三十分
（一日二回、何れの時間でも可）
一、講師　植芝盛平道主
　植芝吉祥丸道場長
　藤平光一師範部長
　外
一、場所　財団法人合気会本部道場
（東京都新宿区若松町一〇二番地
都電東大久保下車・(34)八〇二八）
一、受講費　金二百円也
（見学及び初心者歓迎致します）

以上

合気道の趣旨
この道を志す人々の為に

植芝吉祥丸

一

合気道は昔の武道から、ぬけだし、さらに飛躍して出来た宇宙の大道で、この道を見、またこの道を、日々錬磨しようとするには、まず中世の武士階級の勃興に根ざした大時代的な武道とは全然異った感覚を持たなければ、合気道の本質を究明することは難かしい。

合気道の技は無限で、そのため合気道の技の研究をし、その上達をねがう人々はいたずらに、技そのものにのみとらわれて、合気道の本質的価値を見失う誤りを犯さぬよう注意せねばならない。

もし合気道が中世武士階級の生活を律する中にとけ込んだ、在来の武道的範囲から、一歩も抜け出てないならば、より強きものへの表現のみを求めるのが正しいあり方であると思う。勿論、道を鍛錬する過程において、精神的な鍛錬、主に人間の困苦欠乏に耐える中より生れ出ずる道徳規範がそのもっとも尊いものとされるのである。

二

現代社会において、昔の伝統につちかわれた精神を生かして行くことは、尊いことである。しかしながら封建的な一世紀、二世紀も前のあり方がミサイル時代と云われる現今においてそのまま何の飛躍もなしに継承されてもよいものであろうか。

成程合気道は古い伝統の中につちかわれてはいたものの、それが現代になって植芝盛平翁という、人間により全く異った形において宇宙の真理を表現し合気道と名ずけたことによって、その大道を明示したのである。随って、此の道については唯強さのみのあこがれていうような低いものではなく、相対界を抜き出でた絶対的世界への飛躍であり、即ち自他一体の大和、大愛の表現と云うことになるのである。

ゆえに合気道を見られる方は、この体の動きによる表現を通じて、一個の動きのみにとらわれることなくその動きの本態から発するところの無限のうずを感得せねばならない。合気道の動きの中に、胎蔵した無尽蔵の変化が大自然の動きと常に一体となっている。

三

合気道が、此の様に宇宙の真理に則とって居れば、何事によらず絶対であることは当然である。強いと云うことにおいても、何等そこに疑う余地がないのである。

こういって来ると、合気道の肉体的表現は非常に難かしいものになってくる。さきに言った宇宙一体悟入の境地へは、まさにこの肉体的鍛錬を精神の自律にともなって徹底的に行なわなければならない。此の道を創始した植芝盛平翁の労苦は並大抵のものではなかったことは、当然のことである。しかるに、僅かの年数で合気の本質を会得したかの如き人がいるとすれば、それは合気道を冒瀆するも甚だしいものである。日夜わかたぬ肉体鍛錬の結果得たものは、心の動きの表現の一致でなくては合気道においては全く無意味である。それが、一関節、腕、腰等の動きのみに拘泥するにおいては合気道をもって語る価値なしと見るべきであろう。

四

ここに合気道の規模の大きさが見られるのである。鍛錬においては、壁また壁の連続であるにしても、その一枚々々を突きくずすことに無限の楽しみを感ずるであろうと共にくめどもつきぬ泉の味に浸りうるのもこの道なればこそである。また八十才に近き老人が青年に混じって、全くかわらぬ鍛錬は、深き道のさらに広きことを感ずる証左ではなかろうか。

五

合気道を始めるにあたってややもすれば、その動きに幻惑されて、技のひとつひとつのみを追い求める人全身の鍛錬のみ考える人、恰好の護身術、或は修養の方法として合気道を求める人、皆合気道の立場を肯定して、その立場々々により道を求め追求していることにおいては立派なものです。しかしながら合気道を求める人々は先にもふれた如く偉大にして深いかおりを持ちつつ自己の立場を肯定して頂くにしくはないと思う。そうすることによって技の見方も違い、技法解説を見聞きするにつけてもその進歩の度合が非常に異って来るのである。

六

合気道は、気の出し方が大切だといわれている。この小さい全身が宇宙と一体となって、無限の力が自然の縮図、自然の表現としての全身から、ほとばしり出るように日々稽古したいものである。そうすることによって始めて正しい稽古ともいえるのである。

（本部道場長）

気に合するの道（一）

藤平光一

合気道は、創始者植芝盛平先生が日本古来の武道と柔道、剣道おも会得し更に精神的修行を加えて編み出した独自の武道である。技の中には勿論柳生流、相生流、宝蔵院流および最後に修行せられた大東流等の技が混然一体となって包含されている。

しかし合気道の合気道たるゆえんは、唯、単に技のみにあるのではない。気に合するの道、すなわち天地の気に合するの道に在るのである。

神人合一と言おうか、天地と一体となると言おうか、天地の理を究め、天地の理に基いて動き、天地の理を身体に実在にえがき出す修行道である。

戦前はこれを秘技として公開しなかったので、世人でこれを知る者は、極めて稀であった。

戦後世道、人心の頽廃をうれい、特に青少年の右往左往する様を見るにしのびず、今こそ合気道を天下に公開し、各人に天地の理を悟らせ、自己の真の力を知らせて自信を回復させ、道義復興の一助にもせんとこれが普及を開始してより八年、ようやく日本国内は勿論海外にも普及態勢を整える緒についた所である。

しかし合気道の名こそ多少知られるようにはなったが、真の合気道とはいかなるものかを知る者は極めて稀といってもよいであろう。

ある者は単にその技のみを合気道と解釈し、はなはだしき者は、合気道とは逆手なりと、定義をつける者さへ生じている。

これが誤りなる事は後にくわしく述べるが、いづれも合気道を知らずして、皮相の観にとらわれている者と言える。

「源清からずして、末清きものはない」合気道の修行を志す者はまず合気道の正しき理を学び、正しき修行をし正しき技を会得せねばならぬ。

形のみにとらわれ技のみを学び、力のみに頼って修行する者は、いつか自己流にはしり到底合気道の真随妙技を会得出来ぬばかりかわれと我が道を誤る者も生じ得る事を銘記せねばならぬ。

筆者も植芝先生の側近に待し理なき理をきき、言外の意を悟らんと努力せし事二十年。

多少なりと身をもって体得し得た事柄を披露して、合気道修行の方々の参考となれば、望外の幸と考え、ここに潜越をもかえりみず稿を追って合気道の理を説き進めたいと思っている次第である。

（本部師範部長）

戦前の会員の方々へ

来たる五月十日、合気道本部道場で行われる予定の、道主を中心とした〝謝恩会〟には特に戦前の会員の方々に出席して、旧好の情を交流して頂きたいと思います。

また最近の合気道の普及発展にともなって各地に支部結成の動きもありますので、各地に点在する戦前の会員の方々の協力を得たいと思いますので御連絡の程をお願い申し上げます。

くり返すということ

よく、合気の稽古は面白くないとか、あきるとかいって、技のアウトラインをつかみ一定の段階までくると稽古にこなくなり、やめる方が多いのですが、皆と違って私は死ぬまで、一生涯この合気を自分の最も真剣なアソビの一つとして続けていこうとおもっています。これは私の合気に対する考え方がしからしめるのであります。

合気の技の稽古に対する考え方を一言でいえば、「稽古は技の妙味、精妙さを味わうことでなければならぬ」ということにつきるとおもいます。私は和歌が好きでよく歌集をよんだり作ったりしていますが、多くの歌人の中で、赤彦の歌が一ばん好きです。又詩の方は宮沢賢治のものが非常に好みに合います。好きな作者の精神にふれて、その深さにうたれます。いくらくり返してもあきないものにもう一つ絵画があります、全くセザンヌの絵などは、見るその度ごとに迫るものがあります。

合気の技をくり返すということは、これと同じではないでしょうか。技の妙味を味わいながら稽古を致す為でしようか。幾度読みましてもあきが来ませんし、くり返し味わえば味わうほど、実に一円融合といいましょうか、和の世界といいましょうか、何ともいえない一つの調和と、リズムの世界にふれるのでありますが、このフンイキが私には非常に楽しく、一生涯やめられぬのであります。道場にくるのが苦しいとか、修養とか、我慢とかいうかたくるしい気持ではなく「たのしみにいく」という気持ですなおにやれば愉快で面白く、しかも自然にしらずしらずと強く又上手になり、それだけのものが身について人格の向上もして行くのではないかと思うのであります。それでこそ、くりかえすということに大きな意味がでてくるのではないでしょうか。一言稽古に対する態度について私見を述べさせて頂きました。

O・S生

株式会社　三協
代表取締役　丹羽敦久
東京都文京区駒込坂下町110番地
電話　駒込　(82)0636番

—石炭・コークス取扱—
瑞穂物産株式会社
社長　牧野久男
東京都千代田区内幸町2丁目16番地
電話　東京59　(59)8855番

千曲紙器製作所
東京都台東区竹町四〇番地
電話　下谷(83)九四二七・一九四八

海外の合気道熱

日本は追越される？

最近ヨーロッパ、アメリカにおいて、日本ブームの到来をきたし特に精神的背景をもっている、禅、華道、柔道等の研究が盛んに行われ、その同好者が、日増しに多くなっているという。このような状況は、大変に好ましいことであると同時に、その正しい発展が望まれる。

合気道においても、このブームに負けず、それ以上に、もてはやされている。最近のハワイ、フランス、ビルマの状況を打診してみたところ、本家日本をそこのけの異常の発展ぶりに目を見はらされる。

この発展ぶりを眺めて大いに意を強くするものがある。

寄港したら暴れるな

合気道　チャンバラ映画をはやらす

ハワイ

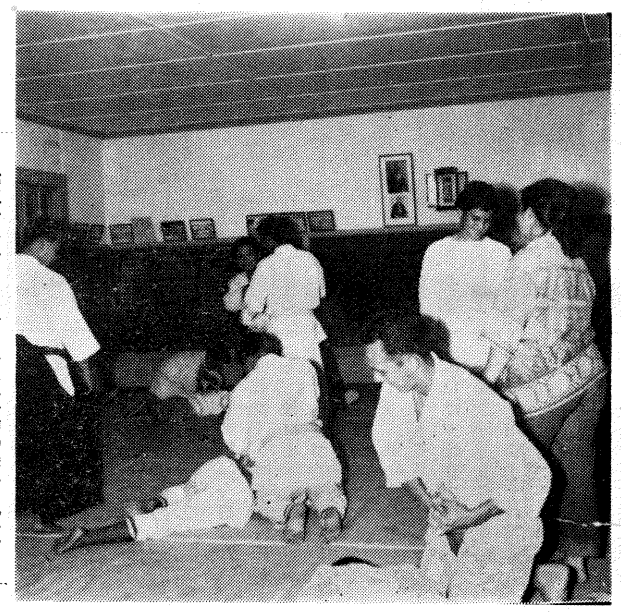
「ハワイに寄港したら、暴れるな」と米海軍の間で評判になっているという。ハワイの合気道熱は、今や米海軍の驚異の的となっている程、盛んであり、その驚異の的となっている、ハワイ諸島の治安に当っている、警察官は昭和二十八年藤平光一八段に手ほどきを受けてより、今日までその手練をおとさないという。また民間では、本拠地オアフ島ホノルル市にある、米国ハワイ合気会の本部の道場では、毎日八十名前後の人達が稽古にいそしみ、その会員数約三千名、有段者は約百十名にのぼっている。また、オアフ島をはじめ、カワァイ島、ハワイ島マウイ島に点在する約二十ケ所の道場は、人種的差別なく熱心に求道にはげみ、気の練磨に夢中である。現在、山本章三四段、高橋一佐男四段、杉本和隆四段が主に指導にあたり、おおいに普及に尽している。

合気道の影響は、ハワイ諸島にチャンバラ映画ブームを来している。合気道が知られていないときは、チャンバラの殺陣場面のうまさが余りにも八百長的で、人が簡単に切れるものかと合点がいかなかったことが合気道が知られるようになってから、その可能性を認めるようになり、合気道の理を、チャンバラ映画の殺陣場面にあてはめて見て、大いに悦に入っている御仁が多いという。その為チャンバラ映画上映のときは各映画館とも行列のありさまという。

合気道熱は本家日本をも浚駕しようとしている状態であり、なかには、日本に武者修業を志す者も増え、その先陣をうけたまわって本年九月に二名来日するとのことである。さらに一九六一年には、米国ハワイ合気会の会員の有志が大挙して、観光がてら来日し、日本に武者修業する心算でいるとのことである。

アメリカの門戸である、ハワイは、その面目にはづかしくないようにと、本年合気道会館建設の気構えを示し日米間のかけ橋の根拠地としての基盤を礎きつつある。

この根拠地よりさらに飛躍して、ロスアンジェルス、サンディエゴおよび、グァム島に進出しおおいに合気道の普及に活躍している有段者が数名あらわれ、彼等は無限の宝庫、アメリカ本土に駿足をのばそうとしている。



（写真はハワイホノルル道場の稽古風景）

新しい国防軍も

ビルマ

ビルマは、現在ラングーン市を中心とした郊外にある。国防軍関係の諸学校において合気道を正科教育として、毎日、二時間村重有利八段、山口清吾六段が指導にあたって、将来のビルマを背負って立つべき軍人の卵に合気道の精神を坤入している。

稽古は気候が大変に熱いので、裸体に近い薄い稽古着で、第一教、第二教等、襟、袖を摑む稽古はやりにくく、その対策を今後の課題として研究しなければならぬという。

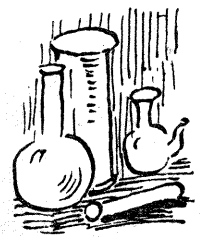
このように、ビルマの国防軍が合気道を採用しているのに、本家の日本の防衛庁が、まだその段階に来ていないのは、皮肉の現象のようである。

またラングーン市に専門道場があり、一般の人達に解放している。第二次大戦の折、日本軍隊が駐屯した影響で、片言の日本語を使い乍ら、求道にはげんでいる。

更に、村重有利八段の尽力で、本年、正式にビルマ合気会を結成し、その活動の模様を本部に報告して来ている。

この機会に合せて、ビルマ国防軍は二月、全ビルマ向け放送にて、合気道の良さを強調し、一般の人達の認識を喚起したとのことである。

従来は、国防軍、警察とも、合気道の悪用を恐れ普及を禁止し、柔道の名において統一していたのであるが、このようなことでは正しい合気道の発展は望めないとして、昨年より、官民を問わず、一般にひろく、ビルマに普及発展せしめる方針のようであり、合気道が親日のために大いに役立っている。



パリジャンも受身

東洋精神の探究にはげむ

フランス

昭和二十六年、望月稔八段に続いて渡仏し、ベルギー、スイス、ドイツ、スペイン等に合気道の普及におおいに活躍した阿部正七段は、今度ヨーロッパの本拠地として、フランスの首都パリに専門道場を設けた。

その影響は、非常によく従来の柔道家のみ関心の有していた空気はなくなり、一般の武道の関心のないパリ子、パリジャンも、その東洋的気分の濃い合気道に大分参っている状態であり、入門者も逐次増加しつつある。

特にパリジャンは稽古に大変熱心であり、第一教、四方投等と真剣に稽古に取り組んでおり、受身も大変に上手とのことである。一昨年帰仏した、アンドレ・ノケ三段は、阿部七段の助手となり、日本で得た実力を充分に発揮している。

元来フランスは柔道の盛んな国として知られているが。現在の柔道があまりにも、スポーツとして発達しているので、何か物足りなさを感じているフランス柔道家は、スポーツ味のない東洋的精神の背景の濃い合気道には、大変魅力を感じているらしく、相当の有段者も、合気道の講習会が開催されるときは、これに参加して熱心に研究、稽古している姿もみられる。

また一面このように柔道・合気道に喰いついて来る原因としては、ただ東洋的なものを得るというだけではなく、生活の為という人達も可成りいる、というのは、フランスにおいては武道で十分生活が成り立って行く状態であり、その特技は、ヨーロッパ人の渇望のものであるからである。

しかしながら、合気道は無条件でフランス人に迎えられているのではなく、その必要性を柔道にない実戦的な技法にあると認めているかたちなのである。これに関しては、種々な異説がとび出しているようであるが、これは一種のある不心得な人達の策動にあるようである。客観的にはこのような小さな感情的問題には関係なく、フランスの人達は、合気道を深くきわめたいと念願している模様であり、さきにもアンドレ・ノケ三段が来日したが、現在ではヴァテイ初段が来日し稽古にはげんでいることでも理解できると思う。

また、フランス政府でもアルジェリアの反乱軍の暗殺手段である、ナイフに対する護身を合気道に求めているようであり、昨年十一月、阿部正七段は、アルジェリアにおいて、合気道の演武大会を行い、フランス軍隊、現住民に大変に感銘をあたえ、成功裡のうちに終了したという。

フランスはハワイと共に海外における二つの拠点となることも間近いことであろう。

弁護士　前田斎
東京都北区豊島二丁目十七番地
電話王子（91）三一八六番

司法書士
行政書士　小松秀吉
事務所　東京都足立区千住五丁目六九一番地
足立登記所通り
電話　東京八八八（888）二九二三番
自宅　東京都足立区栗原町九七三番地

株式会社　畑野組
東京都北区王子四丁目十四番地
電話　王子（91）二二三〇番　二二六〇二番　三三一〇番

佐藤電機株式会社
取締役社長　佐藤佐吉
本店　東京都北区王子一丁目十九番地
電話王子（91）八一六一～四番
支店　東京都北区東十条三丁目六番地
電話　王子（91）〇五二八番

泰光光学工業株式会社
大宮市大字蓮沼一三八五番地
電話大宮（〇八三）二〇六六・二一四九
東京連絡所　東京都北区志茂一丁目十七番地ノ六
電話　赤羽（90）〇七八五番

計理士　稲村忠三郎
東京都中央区日本橋小綱町一丁目一番地
電話　兜町（67）〇九四七・四四八二
茅場町（66）八七三七

九州だより

日本の南端、九州は昔より尚武の国といわれ、今もってその血は脈々と九州男児の五体に流れ受けつがれている。このような土地に、戦後合気道は、いま熊本、福岡、長崎を中心として根をおろしているが、最近の動向を熊本県支部道場長砂泊誠秀六段が寄せられている。

尚武九州の若人

熊本

此の度、待望の合気道新聞が発刊された事は、斯道を歩む者の一人として、誠に喜びにたえません。この事によって合気道が一段と多くの人々に認識せられ、大きく飛躍されるであろう事を期待するものであります。

熊本に於ける合気道は、去る昭和二十九年の一月十日に仮道場を開設し、二月二十一日に熊本県支部として発足致しましてから、今年の一月で丁度満五年になりました。その間、現支部長中島淑人氏の尽力により、三十年十月二日には専門道場として、現在の万生館道場が落成し、爾来、四十畳の小さい道場ながら朝夕の稽古はたゆむ事なく続けられて現在に至っております。

熊本支部の会員数は、昭和三十四年二月一日現在、四一二名で、有段者が、三段七名、二段二八名、初段四一名を出して居ります。これ等の人々が皆稽古しているわけのものではありませんが、時期によって出入が違って来ます。最近は朝夕二十名から三十名位の者が稽古して居り、七、八十名の者が現役といったところでしょうか。

二月一日から試験的に少年部を設け、小学三年生より六年生までを対照にして発足致しました。現在は五名程ですが、ぼつぼつ入会者か増える傾向にありますので期待して居ります。

道場の稽古時間は、朝六時半から七時半、夕六時から七時までの二回で、少年部は、夕五時から六時までとなって居ります。

一般への認識を深めるために、春秋二回の市公会堂に於ける演武大会と、その他に三、四回の演武会を開いて居りますが、最近では各種団体、主なものをあげますと、女子大学、女子高校、刑務所、警察学校、自衛隊総監部等から招かれて演武公開を行いました。

熊本は元来尚武の国であり、加藤清正からこのかた、宮本武蔵の終焉の地としてのゆかりもありますが、その他各種の古武道の流れがあり、柔道、剣道界においても、日本的な人物を数多く出して居ります。けれどもその反面、新しい武道への風当りは強くその面については封建時代そのままの感じとも受取られます。

最近はようやく、座していても門をたたく者の数が増えて参りましたが、これ等の現象は中央での活動が今にしてそろそろ末端に影響して来ているものと見て居ります。

その意味におきましても、山の頂きに降りそそぐ慈雨が山麓の広野をうるおす如く、中央、東京本部での動きは、日本全土の隅々から、世界を動かすまでの力がある事を悟って頂き、今後のより良き活動をお願いすると共に、合気道新聞によって、心身両面からの啓蒙を期待して止まない次第でございます。

飛躍の年おおいに活躍

福岡

福岡市に於ける合気道は昭和三十年十二月末に、西日本新聞社の後援で演武公開を行ってより三年になりますが、その間熊本から月に一週間ないし二週間と往復して、講習会を行い会員を募って参りました。現在の会員数は、六六名、有段者は二段六名、初段六名になって居ります。人口六十万の都会と致しましては十分ではないと思って居ります。

これは地の利を得た道場がない事が第一の原因であり、亦土地柄というのも争えないと思います。

夕刊フクニチの後援で、岩田屋百貨店その他の会場に於いて、度々演武会を行って参りましたので一応一般の人々には知られている事と思って居ります。

今年になって、各方面からの問合せもありますので、今年こそは大きな飛躍の年であると覚悟して張切って居ります。

推進力になる熱心な会員が十名位いて動いて居りますので期待できます。

道場の所在は、海岸よりの築港にある、水上警察署の道場を借用して、毎夕七時から八時半まで稽古致して居ります。

天狗になるな

猪突猛進

奥村繁信

今年は「猪」の年である。これにちなんで、私達日夜稽古に励む者も、今年こそは、大いに飛躍し、猪突猛進して、稽古の実績をあげたいものである。

旅寝論という本の中に、俳人森川許六の言として「昨日の我に飽きたり」という語が見えている。修行において一路猛進して行くピストン的馬力はこの語の示す心構、態度から以外には出て来ないといってよい。一歩一歩向上前進している間は、昨日の自分は卑しく小さく感じられるが進歩が停止すると、慢心が生じ、自分が大きく立派に見える。これでは、その人の進歩は終りである。

合気道のいままでの修行者を見ていると、少し出来るようになると、すぐ天狗になる人がある。一種の自己陶酔とでもいおうか、全く第三者から見るとナンセンスな人すらいる。一生死ぬまでこれでも足りない。これでも不十分というのが修行ではなかろうか。幕末の俳人上島鬼貫が、その著「独言」の中に「只臨終の夕までの修行と知るべし」と書いているが、俳諧の道ですらかくの如ききびしい敢斗精神が要求されている。まして気を練り、心身を鍛え人間の完成をめざす私達は、今一度態度を謙虚にしかも真剣な生活を致してかからねばならない。

中断するな

入門初心の時は、皆一応植芝先生のように合気の技が上手になりたいと思って日夜稽古にはげみ、一歩一歩つみ上げて行くのであるが、凡人の常として、或る時は駈足し、或る時は足踏し、遅々として進まない現況ではあるが、修行を中断することだけはやめたいものである。昔から井戸を掘るなら水の湧くまで掘れという諺すらある。やめてしまうことは今迄の努力が水の泡になるからである。

五輪之書水の最後のところに武蔵が「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とすると言っているが、十年二十年の稽古など全く彼にとっては、鍛練の部類には入っていないのである。また同じ所で「今日は昨日の我にかち、明日は下手にかち、後は上手に勝つをおもい」と言って技の工夫をなすべきことをあわせて説いている。

吾々もこういった、先人に負けず現在まだまだ健在の植芝盛平先生を目標に、倦まずたゆまず精神を重ね道の秘奥にまで参じようではないか。

合気道新聞賛助芳名

（順不同）

東京都　清沢　昭一殿
〃　久保井敏夫殿
〃　名和　能治殿
〃　松岡　敬殿
〃　徳永　繁雄殿
〃　稲村忠三郎殿
〃　佐藤　佐吉殿
〃　越野　淑郎殿
〃　新井　健三殿
〃　富田　直之殿
〃　松本　憲吉殿
〃　鈴木　稔正殿
〃　斉藤　実殿
〃　スリーマイトゴルフ製作所殿
横浜市　石川　勲蔵殿
（昭和三四、三、五現在）

合気会だより

○陽春を迎え会員の皆様には益々御健勝の事と思います。

今度「合気道新聞」の発刊の運びとなりましたので皆様の御手許に御贈り申し上げます。

かえりみますれば戦後十四年合気道もようやく会員諸士のお蔭にて、一般の方々の認識を得るようになり、当事者としては大変に嬉しく思っております。

しかしながら認識を得たといっても、まだまだ本質を理解するまでには至っておらず、他の武道と同質と見られる傾向があるのは残念なことと思います。

このようなことがないよう本紙を通じて正しい合気道のあり方を記述していきたいと思いますゆえ会員諸士の御協力、御高見並びに御鞭撻の程を切に御願い申す次第であります。

○本部道場では本年は一月七日より稽古始め、直轄産経道場では一月五日稽古始め一月十五日には鏡開きを行い、本年の気を新たにしました。

現在本部道場に於ては、植芝吉祥丸道場長、藤平光一師範部長、大沢喜三郎七段等の指導の下に日、曜日、祭日を除く、毎日午前二回午後三回各一時間ずつ合気道の修練を行っており、特に最近の傾向として少年部会員の進出がめざましいです。

○五月には八日から十日迄三日間（一頁参照）東京本部道場にて特別講習会を開催致しますから会員の皆様には大いに同行の士を勧誘し参加して下さい。最終日の十日には合気道大会を行い、全国各地の合気道同好の士が一堂に会し盛大なる演武大会を催す予定です。

尚特別講習会、合気道大会の詳細のお問合せは東京本部道場まで。

私なりに

私は最近、合気道をはじめたばかりの者ですが、合気の持つ深さには、まだ達していませんが、諸先生、諸先輩の人々の稽古を見ていると、各々その人々の個性が生かされた稽古をなされているように見られますたとえば四方投げの技にしても、やわらかみのあるうちに強さを感じる人もあるし、強引に投げとばす人もおりますが、どちらにしても私などには及びもつかない強さを持っています。私も私なりの身体を生かして稽古するつもりです。X生

昇段者

三四、一、一、附

▽初段
長崎県支部　大西　勇夫
〃　山崎晃一郎
〃　河上　秀夫
〃　平瀬　譲
〃　Elbert Leroy Vance
〃　Wally M. Luhton

三四、一、一五、附

▽参段
東京　本部　飯村　郁男
東京　城北　石橋　昇

▽弐段
東京　本部　黒岩洋志雄
〃　吉村　洋
〃　吉永世平治
〃　渡辺　耕二
〃　浅井　勝昭
栃木県支部　古沢共治郎

▽初段
東京　本部　赤沼三巳男
〃　浜口　和明
〃　横山　静雄
東京　本部　丸山　維敏
東京　城北　前田　斎

三四、二、一、附

▽参段
熊本県支部　松原　包雄

▽弐段
熊本県支部　中川　俊郎
福岡県支部　宮島　英邦
〃　三宅　武雄
〃　成田右左義
〃　山下　清
〃　山田　正名
〃　秋田　虎男
〃　山下　博

▽初段
熊本県支部　岡田　寿一
〃　山上　演
〃　小田　広保
〃　芝原　健三
〃　沖崎　一喜
福岡県支部　一本木富隆
米国　支部　関城　ベン
〃　Holtman aloysins

三四、二、二三、附

▽初段
磯山合気同好会　James L. Poulson
〃　Llane Thony Tri

会員諸士へ

一、原稿募集　「会員通信」の読者の声が原稿を募集しています。合気道に関するもので、体験談、感想、論文、質問等何でも結構です。

一、有段章　有段会員章が制定されましたから、有段者各位におかれましては支部を通じて御申込下さる様御願い申し上げます。

株式会社
スリーマイトゴルフ製作所
東京都北区豊島二丁目十七番地
電話王子(91)三一八六